

## 土の中からのメッセージ⑩

国道四一号バイパス建設に伴って(叻岐阜県文化財保護センター)により続けられていた尾崎遺跡(蜂屋町上蜂屋)の発掘も、ほぼ終了しました。発掘の成果の詳細は、今月の7日に予定されている現地説明会(お知らせ欄に掲載)で報告されますが、今回はそれに先立ち、この遺跡の概要を紹介します。

今回調査された約四千平方メートル全域で、住居址や溝などが確認されました。住居址は四十軒ちかくになります。地面を掘り込んで作った竪穴式住居で、ほとんどが四角い形をしています。大きさは、一辺が四メートルから六メートルぐらいのものまでさまざまです。



また住居内部の構造も多様で、竈かまどのある家、炉のある家、壁際に溝のある家などがありました。これらの住居址は弥生時代から奈良時代にかけてのものと思われ、中にはいろいろな遺物が出土しました。壺つぼ、甕かめ、高杯たかづきなどの土器。石斧、石鏃、石庖丁などの石器。その他装飾品、鉄製品など出土した遺物の数は数万点になりました。

遺跡の詳しい性格は今後の資料整理を待たねばなりません。今から約二千年ほど前からこの段丘には集落が広がっていたと思われまます。

今回、次の方々から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございました。

(平成四年十二月分の②)

○硯すずり一点

(渡辺金夫さん/川合町)

○古鏡、地券など 一〇五点

(市原義昭さん/三和町)

○白炭窯用の道具など 四点

(星野一男さん、高野昇一さん/三和町)

近い将来の博物館建設に向けて情報や資料を集めています。資料は見せていただくだけでも結構ですので、市社会教育課(内線362)まで情報をお寄せください。